

平成26年12月4日

根本正顕彰会会報

第77号

発行者 根本正顕彰会

目次

1 巻頭言	会長 會澤義雄	1 頁
2 「第1回公開講座」報告	事務局	2 頁
3 根本正顕彰フェスティバル	事務局	5 頁
4 根本正ゆかりの地を訪ねる旅	小林茂雄理事	8 頁
5 公民館まつり	事務局	10 頁
6 トピックス		
① 根本正顕彰フェスティバルから考えたこと	野内正美氏	11 頁
② ブラジル県人会との交流会	増子輝雄副会長	12 頁
③ 東木倉三世代交流	増子輝雄副会長	13 頁
編集後記		14 頁

別冊:各行事資料(59頁)

【お知らせ】 平成26年度 第2回公開講座

日時 平成27年2月8日(日) 13:30~15:30
会場 那珂市中央公民館 講座室
講演会
講師 仲田義一副会長
演題 「根本正を支えた夫人:徳子のこと」

巻 頭 言

会 長 會 澤 義 雄

今年も師走を迎え残り少なくなってきました。会員の皆様には相変わらぬご指導・ご支援をいただきありがとうございました。

明るい話題としましては赤崎勇・天野浩・中村修二 3 氏の青色LEDに関する研究でノーベル賞受賞がありました。このLEDは寿命が長く、省電力に大きな影響を与えるものと高く評価されています。我が国の科学技術の優秀性を世界に再認識させたのではないのでしょうか。日本の人々に自信と希望をもたらしたものと思います。

一方、今年には自然災害の多い年でもありました。広島の大豪雨と土砂災害、竜巻による災害、10月の御嶽山の突然の噴火、11月の白馬村などでは震度6弱の地震災害がありました。この結果、沢山の人達が亡くなったり、重傷者も出ましたし、住居や工場、社会資本も大きな被害を受けました。平成23年3月11日の東日本大震災は、阪神淡路大震災の19年後、新潟中越地震の10年後に起きています。そして東日本大震災以降地震が頻発しています。日本列島そのものが環太平洋造山帯にあり、もともと不安定な地域にあるので注意が必要です。地震予知は難しいと思いますが、その実現をどなたも渴望しているのではないのでしょうか。是非日本の科学技術の粋を集めて実現してほしいと思います。

過日、福島県の富岡町・楢葉町などをバス1台で富岡町の方の案内で訪ねました。国道6号線に沿って人々の居住できない住宅または活動できない企業が沢山みられました。それと除染で出た大量の廃棄物が黒い袋に包装されて道路沿い・水田・畑など各地に積まれていました。また、四倉駅周辺では、駅は大破しかつての姿はなく、常磐線は広野町までしか開通していません。駅周辺も津波・地震で商店街も住宅も破壊され、まるで平成23年3月11日午後2時45分のままで時間が止まっている状態で、正にゴーストタウン、その復興が遅々として進んでいないのは放射能の影響と思われます。四倉港を見晴らす高台に行きましたが、そこは21・22年の津波に襲われ、それよりはるか低い四倉港は大きな被害を受け復興が進められている。今までマスコミなどで被害状況が報道されていましたが、実際に現地に行ってみないとその悲惨さは解りません。現在も45000人以上の人が46都道府県で避難生活を送っているとのこと（『2014・11・14日付読売新聞』）。昨年は宮城縣石巻市を訪ねましたが、ここは東京電力福島第一原子力火力発電所から離れている関係で土地の整理もみられますが野原化し、大川小学校などは被害を受けたままの状況でした。このような三重苦の悲惨な災害を防ぐためにも「被災地のことを忘れ去ってはいけない」と強く感じました。

また、突然の局地的豪雨については気候の温暖化の影響も言われておりますが、想定外の被害を各地にもたらしています。気象災害は今後の研究に待たなければなりません。日本列島を縦断する台風は本来は秋口に多いのですが、今年は偏西風の張り出しが弱く、その影響で列島縦断の台風が多かったようです。これも地球温暖化の影響でしょうか。根本正は暴風による漁業の被害を防止するため、我が国最初のつくばの高層気象観測所を提案し大きな成果を上げています。

平成26年第1回公開講座（報告）

- 1 日時 平成26年7月27日（日） 午後1時30分から午後3時30分
- 2 会場 那珂市中央公民館 2階講座室
- 3 講師 増子輝雄 副会長
- 4 テーマ 「根本正と高層気象観測所設置」
- 5 参加者 36名



事務局の準備不足のために1月延期して行われた公開講座であったが、担当の増子輝雄副会長の高い意気と情熱とによって多くの参加者を迎えて盛会裡に開催することが出来たことは大変喜ばしいことであった。順次、講演内容の要約を示してゆく。

1 根本正の国会議員としての主な業績について

二大眼目は国民教育の普及と交通機関の整備であった。政策の実現に当たっては「踏まれても、踏まれてもと根強く忍ぶ」不屈の精神を貫いた。

2 茨城・千葉両県沖の海難事故について

明治43年（1910）3月12日、水戸市では前日11日の夜半から雪となる。流し網によるマグロ漁は海が荒れるほどよいといわれる反面性を持っていた。この事故は、平成21年3月11日の東日本大震災とダブって見える大海難事故であった。事故の背景には、漁船の構造・機能的欠陥と避難港の乏しさにあった。その上で最大の要因は高層気象観測の未発達にあった。郷土出身の名横綱常陸山が遭難漁民の追善供養相撲興行を行い、益金を遺族に分ち、華蔵院境内に供養塔を建立した。

3 高層気象観測所の創設へ

① 『帝国議会報告書』を多く引用して具体的に説いたところが印象的であった。

衆議院議員になった5年目の明治36年に「大日本帝国水難救済国庫補助に関する建議案」を英米露仏国など外国の資料を添えて建議している。用意周到というべき姿勢である。（第17回帝国議会）

② 欧米の各国は競って高層気象観測所の設置へと向かっている。これが無いのは国の欠陥である。

- ③ 茨城・千葉両県沖の海難大事故の10日後の第26回帝国議会で議員立法で「高層気象観測所設置建議案」を提出した。「このような海難事故を防止するために、政府は速やかに（高層気象の観測により暴風雨の発生する以前にその兆候を知ることが出来る）高層気象観測所を設置せよ。天災を人為を以て防ぐことが出来る。」
- ④ 第31回帝国議会では「高層気象観測所を設けないのは国民の利益にならないばかりか、これはわが国文明の恥辱である。」

建議案を提出した国会ではいずれも可決し得ているが、設置実現には至っていない。

4 高層気象観測への提言

設置要望的建議から方向を転換して、建設的な実現への提言へ変化していく。

第31回帝国議会での提言

- ・「実現しないのは財政上の理由と思われる。」これには日露戦争等による軍事費の増大が考えられる。（当時の戦局・情勢も無視は出来ない。）
- ・経費は少なくて利益の大きい方法がある。観測所は平地でも出来る。天災を防ぐことは、間接的には国力の発展にもつながる。設置を実現しないのは、世界文明に遅れているからである。

5 長峰原に高層気象観測所設置される

明治44年中央気象台技師大石和二郎ドイツ留学、欧米歴訪して観測所視察研究。大正2年に大石和二郎帰国、設置促進、予算案提出、茨城県内を中心とした設置場所選定へ。

長峰原（現つくば市）国有林、友部国有地、石岡龍神山、女化原（牛久市）、後台東部地区（現那珂市、後台地区の住民にまだ意識不足も影響か）

また、茨城県内には早くは山階宮菊麿王殿下によって設置された「山階宮筑波山測候所」があり、現在は気象観測に関する施設が高層気象台、柿岡の地磁気観測所、筑波山測候所をはじめ5カ所所有。地道ながら貴重な施設の存在意義を県民も再認識すべきである。

なお、根本正の気象観測への関心は、天保6年（1835）生まれの幕臣荒井郁之助と安藤太郎らの姻戚関係や彼らとの交流の影響が見られる。

6 関係資料 『常陽藝文』、2009年7月号 気象庁高層気象台パンフなど

さらに、大海難事故のあった明治43年3月12日の天気図（気象庁提供）が紹介された。暴風雪をもたらした気圧の渦が明瞭にわかる貴重なものである。このような天気図は作成されていたが、残念ながらまだ予想までは出来なかった時代であった。

加えて、現在は全国17カ所の気象観測所と船舶による海洋観測、南極など基地での観測などがつくば市の高層気象台に集約され、気象庁から世界に送られ、世界の師匠の予想、安全対策となっていることも紹介された。

今日、日本はもちろん世界的にも気象は大きな変化をもたらしている。梅雨といい、酷暑といい、極寒に大雪、地震といい荒々しい気候、気象となっている。常に関心を持たざるを得ない状況下にある私共に大きな啓発となる発表であった。

7 参加者の意見

- ① 海難事故の後、遺族の救済策として松苗などの植林が行われたといわれるが、実体は如何なものか。

植林は遺族の生活資金とする救済事業で、働く場所を与えたことであった。悲しみ涙を流しながらの植林から、その地は「泣引山」とも称されたという。また、生活支援に対して、遺族への心ない非難もあったようでもあった。

- ② 根本正の気象観測への関心は安藤太郎らとの交流も背景にあったとは新たな視点であると思うが。

根本正の米国留学が「人命尊重第一」の精神を得ることになり、欧米での先進的気象観測に大いに関心をもって帰国したはずである。

- ③ 後台地区が観測所選定の候補地となったようであるが、何故に実現しなかったのか。根本正の熱意が茨城の地に設置をもたらしたであろうが、地元の反対があったか。

- ④ 高層気象観測所が富士山ではなく筑波山であった理由は何であろうか。

いわゆる首都圏に近く、周辺は平野、その中に屹立する高地はまさに観測所としては最適であったと思われる。して

- ⑤ わかりやすくよくまとまりのある内容で感激しました。根本正が、このような気象関係にまで大きな働きをしていることに驚きました。このような新たな面をもっともっと研究して教えて下さい。

- ⑥ 根本正顕彰会が、いわゆる出前講座として那珂市内の地域に出て指導してもらえないか。また、依頼するときにはどのようにすればよいのか。

顕彰会としては、役員・理事が中心となっていていつでも何処へでも出かけられるように心がけている。遠慮なく依頼して欲しい。依頼先は正・副会長、事務局あるいは各理事などにご連絡いただきたい。

以上

平成26年度根本正顕彰フェスティバル（報告）

－ 念願の那珂市全域での開催を達成する －



「那珂市の先人根本正の存在を市内外の人々に知ってもらいたい。そしてそこから人としての在り方を学び取り、生きる勇気と明るい社会づくりに努めようとする力を得ていこうではないか」との思いから、根本正顕彰会は日々の活動を行っている。

この顕彰フェスティバルもその一つであり、まずは市内全域で開催することで進んできた。最後に那珂市の中心地菅谷地内で、学校関係者や菅谷町づくり委員会のみなさん、さらには市内外の一般市民の方々など大勢の参加者を迎えて開催出来たことを共に喜びたい。

開会に当たって會澤義雄会長は、那珂市が名誉市民として4名の国会議員（故人）を選定した



が、その一人に選ばれたことは会としても大変名誉なことであり、ありがたいことである。ますます活動に励み、根本正先生の理想に邁進する情熱とその施策に学んでいきたいと述べられ、さらには、今年が水郡線全通80周年の記念すべき年でもあり、それにならぬ因んだ「ゆかりの地を訪ねる旅」も企画した。それぞれ時宜にかなった行事をとりいれながら更なる前進をはかっていきたいと決意を表明された。

先崎 光県議員様からは「根本正顕彰フェスティバルの盛会をお慶び申し上げます。一の関池の記念碑・大子駅前の胸像が私たちに語りかけるものは、世のために自分のできる事は何かではないでしょうか。会の益々のご発展とご参会の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。」とのメッセージをお寄せいただきました。

寺門 厚那珂市議会議員様からは、顕彰会立ち上げのころからの自らの活動を回顧されながら、「さらに根本正先生が留学された米国バーモント州との国際交流を視野に入れて、その実現にも尽力してまいりたい」との力強いごあいさつを頂戴しました。

フェスティバルの内容は、これまでと同じである。

受付（横地富子、小林茂雄、各理事）

総合司会（山田正巳理事）

開会のあいさつ（増子輝雄副会長）

会長あいさつ

来賓祝辞

1 映像で見る根本正先生 (映像担当:鈴木正矩理事)

2 講演

(1) 根本正と青少年育成(會澤義雄会長)

教育の在り方について

- ① 青年は自己の力で未来を切り開いて欲しい。
- ② 女子教育が盛んになるか否かは父兄の責任である。
- ③ 国家社会の責任として地域の格差なく、教育の機会均等を実現せよ。
- ④ 未成年者の禁酒禁煙法を成立させた。

などを紹介した後、「以上、根本正のすばらしさは、何十回否決されてもあきらめずに、日本の将来を考えて信念を通したことです。日本の子供たちのために、これほど真剣な努力をした政治家を知りません。現在は、青少年の飲酒・喫煙問題が余りにも多すぎる。根本正はなぜ22年の政治生命をかけてこの法律を提案し続けたのか、もう一度青少年はもちろん大人たちも一人ひとりが胸に手を当てて思い起こしてみる必要があるのではないのでしょうか。」と結ばれた。

(2) 水郡線敷設と根本正(仲田義一副会長)

① 今年は水郡線全線開通80周年となる。明治18年(1885)の東北本線開通や明治22年(1889)の水戸線開通、太田鉄道・水戸鉄道水戸・大宮間敷設など茨城県に関する鉄道敷設の歴史を説き起こされた。東石川郡笹原村の村会議員白石禎美(天領であった塙の庄屋・藩御用商人を務めた家柄)の熱意が叔父の代議士白石義郎を動かして鉄道敷設を模索立案、実地踏査を進めたこと、根本正が福島八溝山系の資源を生かすために東京への輸送、また人的交流を盛んにするための力には鉄道が是非とも必要とその敷設に熱意を込めたことが一致して水郡線敷設が実現された。



② この水郡線敷設実現には政党政治の利害や経済界の動きにより紆余曲折があった。そのような中で、根本正がねばり強く実現に奔走された。大子町の町民が2回も根本正の胸像を建てたことは、その喜びと感謝を示すものである。私共は、それらの恩恵を忘れてはならない。鉄道がなかったならば、戦後の経済復興は難しかったであろう。

③ しかし、鉱石・木材・ゴボウ・煙草・さつまいも・肥料・杉苗など資源類の輸送はもちろん人々の移動は自動車に取って代わられた。諸資源も人口も激減している。昭和37年(1967)に貨物取扱が廃止となり、昭和45年(1970)からは無人駅化が始まった。「水郡線の活性化は、如何にすればよいのかは、我々一人ひとりの問題である」と大きな問題提起をされた。

④ なお、鴻巣出身の代議士で根本正の盟友であった宮本逸三も水郡線敷設には尽力された。常陸鴻巣駅設置には土地や資金を提供するなど私財をなげうって協力したこと、常陸大宮・菅谷間の国有化にも根本正と共に尽力したことも忘れてはならないと宮本逸三についても紹介されたことは水郡線敷設問題に新たな視点を見出されたことで注目された。

質疑応答

① 大子駅は昭和5年(1930)12月に設置された。町では盛大な祝賀が行われたが、未だ水郡線全通ではなかった。大子町の人々は、その後をどのように考えていたのだろうか。

(答え) 水郡線が郡山まで延びなければならないことは十分承知していたであろうが、まずは大子町まで開通したことを喜ぶのは自然なことであろう。沿線の各地域の人々の思いは同じではなかろうか。全線開通は、国家としてはもちろん沿線住民の共通の喜びであったろう。

② 水戸で活躍した代議士飯村丈三郎と根本正の関係はどのようなものであったろうか。

(答え) 飯村丈三郎は茨城新聞社や茨城高等学校・同中学校創立にも大きな力を発揮したが、出身は県西の下妻市である。自由民権運動にも奔走して根本正と相通ずるところもあるが、直接の交流はなかったと思われるが、なお調べておきたい。
(第1回総選挙で衆議院議員(政友会議員)になるが3年後には引退、川崎財閥と関係を持ち水戸鉄道、日本火災保険(株)京成電鉄(株)の役員。「報恩感謝」が信条)

③ 水郡線の貨物列車の運行は一時盛んであったが、搬送される中身はどのような物であったろうか。

(答え) 西金駅は久慈川対岸の碎石積み出し駅、福島県側では木材、タバコ、コンニャク類、那珂市域では杉苗、ゴボウ、タバコ、さつまいも、穀物などが多かった。常磐線は石炭輸送が主であった。

④ 根本正の晩年はどのように過ごされたのでしょうか。

(答え) 落選後に政界を引退した後は表立った活動はなかった。家庭ではクリスチャンとして過ごし、時には義公壁書などの話しをよくしていた。家には大きな弘道館記の拓本を掲げてその心意気を示していたと伝えられている。

閉会のあいさつ(小林茂雄理事)

マスコミがフェスティバルを紹介



(『茨城新聞』:平成26年8月28日附け 水郡線に関する質問に答える仲田義一副会長)

那珂市市制施行10周年記念協賛事業、水郡線全線開通80周年記念

水郡線全線開通に尽力した根本正を訪ねる旅 実施報告

1. 実施日 平成26年10月5日(日)

2. 行き先 石川町——水郡鉄道の碑、自由民権運動発祥の地碑、石川町立民俗資料館
棚倉町——ルネサンス棚倉(昼食)、棚倉城跡、赤館城跡(道路事情により車内、及び棚倉城跡にて説明)
塙町——向ヶ岡公園水郡鉄道完成記念碑、田中愿蔵記念碑、道の駅 塙
大子——根本正胸像(駅前)、十二所神社胸像跡(台風影響雨のため、現地見学割愛)

3. 参加者数 49名(会員27名、非会員22名)

4. 行程 順番	見学先等	所要時間
(1) 上菅谷駅発		7, 49
大子駅着		8, 50
(2) 石川町	水郡鉄道の碑、自由民権運動発祥の地、 石川町立民俗資料館	10, 20~11, 40
(3) 棚倉町	昼食(ルネサンス棚倉) 棚倉城跡	12, 10~13, 00 13, 10~13, 30
(4) 塙町	向ヶ岡公園水郡鉄道完成記念碑、田中愿蔵記念碑 道の駅 塙	13, 50~14, 40
(5) 大子町	根本正胸像(大子駅前)	15, 10~15, 40
(6) 帰着	上菅谷駅前	16, 30

5. 役員担当

(1) 事前調査 會澤会長、増子副会長、小林理事

(2) 車内、及び現地説明

日程、顕彰会活動状況——増子副会長

全線開通80周年記念水郡線敷設事業の経緯について——仲田(義)副会長

石川町——水郡鉄道の碑、自由民権運動発祥の地碑、石川町立民俗資料館——會澤会長

棚倉町——棚倉城跡、赤館城跡——仲田(昭)事務局長

塙町——向ヶ岡公園水郡鉄道完成記念碑、田中愿蔵記念碑、——仲田(義)副会長

大子町——根本正胸像(大子駅前)、十二所神社胸像跡——仲田(義)副会長

(3) 車内司会、進行——小林理事

受付——横地理事、小林理事

駐車場案内、誘導——仲田(昭)事務局長、山田理事、根本理事

写真、録音——鈴木理事

会計報告——小林理事

ゆかりの地訪ねる旅、参加お礼、終了挨拶——仲田(義)事務局長

6. 見学先説明——別添資料参照願います。

7. 参加者の声

- ① 水郡線80周年の良い機会を得て良かったです。黄門ウオークで根本正の生家を見、今日は更に勉強になりました。
- ② 今日は大変勉強になりました。県外の人々からも尊敬され、また幅広い分野で活躍されていることに敬服しました。
- ③ 水郡線の思い出、学生時代が印象的でした。ギューギュー詰めで通って、その当時は誰が造ったかも考えていなかったが、顕彰会に入り、改めて根本正の偉大さを知りました。
- ④ 自由民権運動発祥の地、河野広中と高知が結びついていることを知った。水戸～郡山間142キロメートルは知っていたが、23年もかかったこと、先人たちの努力、造る意欲を知ることができました。
- ⑤ 石川民俗資料館の石が特化した、世界的レベルの展示に驚嘆しました。

事務局雑感

- ① 今回は、那珂市市制10周年記念協賛事業、水郡線全線開通80周年記念の根本正ゆかりの地を訪ねる旅でしたので、全コース水郡線利用の旅を、当初企画しましたが、ダイヤの関係（大子～石川間の列車本数、時間）、見学先への利用乗り物と予算の関係等を種々検討した結果、上菅谷から大子まで水郡線利用、大子からは観光バスにて、ゆかりの地を見学し上菅谷駅帰着となりました。
- ② 帰りルネサンス棚倉で昼食、出発時頃から、台風18号の影響で雨が少し強くなり、一部予定変更、見学時間の短縮等もあり、予定より1時間早く16, 30分に上菅谷駅バス到着となりました。
- ③ 早朝にも関わらず、予定通り水郡線での出発ができ、車内では全員席に座れ、バスでの乗降、出発時間等についても、参加者の協力によりスムーズにいきましたことを感謝いたします。
- ④ 今回のゆかりの地を訪ねる旅につきましては、那珂市、上菅谷駅、大子駅、石川駅等の皆様方からの特別な配慮、協力がありました。また石川町民俗資料館、石川町役場、棚倉町、塙町各役場、茨城交通大子（営）の方々や、駐車場地主様の温かい協力、配慮などがありました。感謝いたします。
- ⑤ 皆様の声などを参考として、これからも、ゆかりの地を訪ねる旅を企画していきたいと、役員一同考えておりますので、よろしく願いいたします。

(理事 小林 記)



2階講座室内:会場風景1



会場風景2



平成26年は水郡線全線開通から80周年に当たる。その記念事業の一つとして12月初めにはSL

も運行される。沿線は多くの写真マニアで溢れることであろう。もちろん乗客も予定を大幅にオーバーすることであろう。しかし、通常の乗車率は減少の一途を辿っている。そのため、利用振興に向けてさまざまなイベントが計画されている。本顕彰会も、今年の研究・展示テーマに「水郡線の軌跡と展望」を設けた。役員がそれぞれ担当してまとめ、展示用に整理したものである。できるだけ多くの方々に「水郡線」を意識し、利用していただくために。根本正と地元在の宮本逸三両代議士の誘致運動時代と何が異なるのか、その当時の熱意をどのように形で再現することができるかなどの課題を負いながら。

展示テーマ 「水郡線全通80周年記念:水郡線の歴史と展望」

- | | |
|-----------------------------|------------|
| ① 顕彰会の活動記録と「ゆかりの地を訪ねる旅」開催報告 | (小林茂雄理事) |
| ② 茨城県内鉄道の歴史とその変遷 | (會澤義雄会長) |
| ③ 水郡線敷設の発想 | (増子輝雄副会長) |
| ④ 宮本逸三と鴻巣駅 | (横地富子理事) |
| ⑤ 山方宿駅と大子駅の設置 | (仲田昭一事務局長) |
| ⑥ 幻の湊・菅谷線 | (山田正巳理事) |
| ⑦ 水郡線の全線開通 | (仲田義一副会長) |
| ⑧ 水郡線の展望 | (鈴木正矩理事) |

公民館活動の中心はやはり手芸的なものとなる。また、コーラスや調理関係、写真や篆刻、読み聞かせなど動的なものが多い。それぞれの趣味を活かすことは生涯学習の時代に大切なことである。この他に研究会的活動もいくつかはあるが、展示で活動内容を披露するまでには至っていない。そのような状況の中で展示を続けている本顕彰会の参加活動は実に貴重な存在である。

来館者からは、「よくまとまっているし、よく研究しているのですね」など多くの讃辞をいただいた。

ほなひ歴史通信

第72号
2014.9.1

「根本正」 顕彰フェスティバルから考えたこと

平成二十五年九月に大子町文化福祉会館「まいん」で、根本正顕彰会主催の水郡線全線開通八十周年記念フェスティバルが開催されました。映像で見る「根本正の生涯」ビデオ鑑賞のほか、會澤義雄会長の「青少年健全育成の精神と業績」、仲田義一副会長の「水郡線敷設事業の業績」、私の「水郡線開通と大子町の人々」の三つの講演がありました。

私は、「水郡線建設を訴える根本正のもとに集まった人々の間に、大子町、大子地方というまとまりが生まれ、その後の町村合併、農業や商業の発展へとすすんでいく。保内郷、大子町の意識が人々の間に根づいていった。大子町のさまざまの人々が活躍しています。」と、当時の資料、根本正の言葉を紹介しました。

昭和五十八年三月発行の「常陸大子運転区五十年史」で、当時の機関士の古沢藤一郎氏は、「鉄道の開通は明治末期以来、大子地方住民の悲願でした。」（全線開通の当日は晴天に恵まれ、早くから出札口に列ができ、ホームに並んだり、右往左往していた。途中の駅では貨物ホームにむしろや新聞紙を敷いて老人は腰をおろし、若い人達はそのうしろにたって見物していた。乗客は初乗りをしようとする町村の有志達、先生に引率された小学生達が、一駅ごとに交代していた。」と述べています。また、同じく機関士だった内藤郁三氏は「昭和六年には、失業者三五〇万人を数え、昭

和九年には東北地方の冷害、九州地方の干魃による大飢饉、大陸における支那事変の勃発による不況の波及は大子地方にも大きな打撃を与え、農村の経済更正が強くさげばれていた時代でした。

この時期に水郡線が明治四十四年帝国議会で建議以来、幾多の紆余曲折を経て、水戸―郡山間全線開通となり、機関区が開設され一〇〇名を超す職員が転入してくることに、町の人々は大きな期待をいだき、：貸家がつぎつぎと建設され：たことは、鉄道の建設が如何に地方の発展に大きく寄与したか推察される。」と述べています。更に、あとがきには、「五十年を迎えるに当り、創設の昔から今日までのあしあとに想いをいたせば、あの山、あの川、かつての奥久慈の寒村は平和、時に戦争、復興と幾度遷を経て今や自然は遠く立ちのき、世の行くところ舗装された道路網、自動車の激しい往来と、建ちならぶ色とりどりの住宅と大きく変わりました。」と書かれています。

「フェスティバル」で私は、根本正胸像建設事務局の木沢静の資料、根本正のスピーチを紹介しました。当時の資料、当時の声を伝えたいと思っていました。ある質問者は、大子町の小・中・高校を卒業したが、根本正について何も教えられなかったと言います。たしかに、根本正を、那珂町がまず「郷土の偉人」とすべきたという意見が昔からありました。でも、根本正は大子町に、なぜ、これほどの情熱をそそいだのでしょうか。

「フェスティバル」で、仲田副会長の「水郡線の役割とはなにか」、「水郡線をなくしてはならないとの熱弁に打たれました。昭和五十年代からのマイカー時代、車社会の前に、バスの時代、鉄道の時代がありました。大子駅からのバス路線は、栃木県烏山へ、里美を通って川尻(十王駅)へ、大洗の海門橋へと、たくさんの人を乗せて、行き交いました。「八十周年」を迎える水郡線の大切さを大子町の人々に、訴えていきたいと思ひます。

今年も、十二月五〜七日に蒸気機関車が運行されます。(野内)

平成26年度 茨城・ブラジルふるさとリーダー交流事業

歓迎交流会参加報告

副会長 増子輝雄

茨城県の国際協力事業推進の一環として、毎年「茨城・ブラジルふるさとリーダー交流事業」を実施しており、今年度はブラジルふるさとリーダー2名、南米研修員2名が招かれ、平成26年11月21日水戸市の水戸京成ホテルに於いて、ブラジルに関係する団体の方々等との交流会が、茨城県の主催により開催されお互いに情報交換をし親睦を深め合いました。

本顕彰会からは會澤義雄会長、増子輝雄副会長が参加しました。會澤会長は自己紹介のあとあいさつの中で、根本 正顕彰会を紹介し、根本 正が日本人のブラジル移民の基礎となった探検調査を行なった経緯等について説明しました。熱心に聞き入っていたふるさとリーダーの方達は1世紀以上前の先人の業績に思いを巡らし、さらに現在もその根本 正を顕彰している事実深く感動していました。

ふるさとリーダーは県内に8日間滞在し、各方面で視察研修等を行うこととなっています。

歓迎交流会参加者は次のとおり

所 属	氏 名	備 考
26年度 ふるさとリーダー	山住 ファピオ 裕治 小林 ナタリア まゆみ	ブラジル ブラジル
26年度 南米研修員	藤山 ジュリアナ 美智江 平井 リオネル トマス 誠	ブラジル アルゼンチン
ホストファミリー	山住さん親戚 高橋量光他2名 小林さん親戚 小野田紀夫他1名	
茨城県海外移住家族会	会長 西村和夫	
根本正顕彰会	会長 會澤義雄 副会長 増子輝雄	
アルゼンチン県人会	会長親戚 小池 貞	
茨城県国際交流協会	理事長 斉藤久男他1名	
茨城県国際課	副参事 鳴原俊秀他2名	事務局

東木倉自治会で「根本 正の生涯」

についての講演会開催される

根本 正の生誕地である東木倉自治会（会長 伊藤喬章氏）では、平成26年度の三世代交流事業の一環として、根本 正顕彰会より講師を招き「根本 正の生涯」についてと題して講演会を開催されました。

根本 正は衆議院議員として26年間活躍し、数々の業績を残した功績により、このたび「那珂市名誉市民」の称号を贈られたことから、この機会に東木倉地域の多くの方々に根本 正を知ってもらおうと計画されたものであります。

平成26年11月8日東木倉公民館において、小学生などを含めた三世代の方々約50人が出席しました。講師は地元五台出身で根本 正顕彰会の増子輝雄副会長が務めました。

講演は第一部として「根本 正の生涯」について、第二部は根本 正の教育立国の精神が、生誕地である東木倉清水が原に導かれたように、文教地帯が形成されている現状についての内容でした。

講演終了後、参加者全員で根本 正の生家を訪問し、当主の根本喜代寿様ご夫妻に温かく迎えていただき生誕地の碑を見学しました。

続いて根本 正が分骨されている根本家の墓地に当家の根本正治様に案内していただき墓参して、再び東木倉公民館に戻り参加者は次の行事（球技大会、昼食会等）に進みました。

（増子輝雄 記）



【編集後記】

今年、那珂市は市制施行10周年を迎えました。これを記念する一事業として「那珂市ゆかりの先人」の中から名誉市民を選定し、その称号を贈り感謝いたすと共に、その精神を承けて新たな目標に向かって前進していこうと決意したところです。その名誉市民は、まずは国会議員4名が選定されその中の一人に根本正先生がおります。国会議員生活が同一時期に当たり、同じ政友会の盟友として活躍した衆議院議員宮本逸三先生、3人目はジャーナリズム出身として正義感を貫き、軍の行動を問い続け政治と軍関係者との正常化を期された衆議院議員中井川浩先生、4人目はクリスチャンの知事として茨城県政を担い、「農工両全」の精神をもって鹿島開発を実現させ、歴史を重んじ史資料保全の重要性を説いて「公文書館法」を制定させた参議院議員岩上二郎先生です。根本正顕彰会としても大きな誇りを持って、今後もより一層日々の活動に邁進して参りましょう。

増子副会長の公開講座では、根本正先生が「高層気象観測所の設置」に尽力された姿を紹介されました。明治37年の第21回議会に於いて「欧米では既に設置されている。今日高層気象観測所を持っていないことは国の欠陥である」と強く訴えたことは実に印象的なことでした。今日の地震予知学会の力はまだまだです。今秋の御嶽山の噴火をはじめ最近の噴火・地震の連続・異常気象・魚群の異常などなど、日本列島が、否、地球全体がまさに活動期再来を予見させられる状況です。自然と人間との共存を安泰させるためにも、また、被害を最小限に持っていくためにも、人間の力が試されています。根本正先生の「眼」は常に先へ先へと向かっていくことを思い起こさせてくれました。

交通機関は、農産・水産・林産・鉱産資源や製造業産物などの輸送や人的交流の促進と地域の活性化をもたらしました。根本正先生や宮本逸三先生たちが尽力された水郡線敷設もその一つです。その全線開通から80周年を迎え、「根本正ゆかりの地を訪ねる旅」「公民館まつりの研究テーマ」も水郡線を取り上げました。敷設当時の地域住民の熱意を、今日いかに受け継ぎ、いかに対処していけばよいのか、時勢の推移と共に交通網の在り方が再考されなければなりません。根本正先生の師匠である豊田天功・小太郎のお二人は政策的に「変通」を説かれました。現在、この「変通」をいかにとらえ実現させていけばよいのか、英知が求められています。

顕彰会は、実にねばり強く活動を続けていると実感しています。フェスティバルは那珂市内の中心地「菅谷」で実施され、行事の広報等により市民に伝わり、先生の精神は広がりつつあります。この貴重な行事を、どのように敷衍させて一層の啓発活動に結びつけていくか、会員の声を求めながら、さらなる飛躍を目指したいところです。

古来、日本の年号には順序を示す単なる数次ではなく「理想」や「願望」などの意味が込められてきました。西暦とは大きな違いのあることを再認識したいところです。その意味で、新たな年には「平成」がその通りに成るような社会の到来を期したいものです。

〈仲田(昭)記〉